

## 「第4回財政健全化推進本部会議」市長訓示

### 【一般財源収入の落ち込みについて】

局長，区長の皆さんにおかれては，厳しい社会経済状況の下，市民生活の安心・安全を守るため，中小企業・地場産業を守るため，また京都の未来への展望を開くため，連日連夜，奮闘されていることと承知している。

半年前，7月22日の第一回財政健全化本部会議において，私は皆さんに「今後，益々厳しい局面に立ち向かっていかなければならないことを覚悟していただきたい。」と申し上げた。

只今，川島財政担当局長から説明があったとおり，来年度の一般財源収入は法人市民税の落ち込みなどにより，10月時点での財政収支試算から更に40億円も下回る見込みとなり，財政状況は一段と厳しさを増したと言わざるを得ない。

ちなみに，平成20年度決算の市税収入は2,664億円であり，22年度の市税収入見込みは2,450億円程度ということで，市税だけで実に210億円程の減収となる。

国の来年度の地方財政対策については，概要が公表され，地方交付税・臨時財政対策債の総額が確保されたことは評価するが，今後どのように配分されるのか，現時点では未定であるので，引き続き国にしっかりと申し上げていきたい。地方交付税については，15年度以降の5年間で，京都市は全国平均を大幅に上回る500億円（39%）もの削減が行われており，今日9日には原口総務大臣に直接お会いし，本市の状況を詳しく説明し，総額の確保とともに地域間格差を是正するための財源調整機能の確保をお願いしたところである。今後も引き続き，都市の特性など地域の実情を踏まえた配分となるよう，粘り強く国に求めていきたい。

歳入の根幹をなす市税等の収入については，これで概ね来年度予算における姿が確定することとなるので，年末の忙しい時ではあるが，本日，本部会議を開催し，厳しい財政状況についての認識を共有しようとするものである。年末年始にかけて，いよいよ本格化する予算編成に向けて，この厳しい局面を何とか乗り切って参りたい。

### 【予算要求の更なる精査について】

各局各区においては，局長，担当局長，区長の皆さんの強力なリーダーシップの下，議論に議論を重ね，知恵を絞りに絞って，局配分枠予算の精査，また，

未来まちづくり推進枠の予算要求を行っていただいたことは十分に承知している。

皆さんの御尽力により一定の見直し成果が上がったことは事実であるが、依然として110億円の財源不足が残っている。今後の予算編成の大詰めに当たっては、この極めて厳しい財政状況を直視し、徹底して行政の縦割りを排した施策の融合と、市民の方々との共汗により、最小の経費で最大限の効果を発揮するよう、大いに議論して参りたい。

#### 【国予算の情報収集について】

国予算案もいよいよ明日閣議決定されるが、大きな制度改革が見込まれており、本市予算に与える影響も甚大である。事業仕分けや今年度2次補正も含め、各局において国の情報収集に努める一方、情報を全体で共有しながら、的確かつ速やかに本市予算に反映し、更に、国に政策提言を行っていくよう、よろしく願います。

地方交付税の総額確保など、国予算における地方財政措置については、本市独自に、また、指定都市とも連携して、これまでから、再三再四、要請活動を行っている。今後も全力投球で行っていく。

各局においても、情報収集はもちろんのこと、財源の確保に向けて積極的に行動してもらいたい。

#### 【有識者会議の設置と財政構造改革について】

厳しいことばかり申し上げた1年であったが、この未曾有の難局の中でこそ、市民生活を守り、地場産業・中小企業をしっかりと支えなければならない。同時に、決して縮み志向に陥ることなく、京都ならではの強みを生かし、伝統産業から先端産業まで幅広い産業の融合、大学との連携、ごみ減量、3Rの推進など環境モデル都市としての取組、公共交通優先、歩くまち京都の推進など、明るい未来の京都に向かって、市民と夢、目標を共有しながら進めていきたい。

将来世代がいつまでもこのような厳しい財政状況で難渋することのないよう、中長期的な視点で、徹底的に財政構造を転換する必要がある。そのため、先般、「京都市財政改革有識者会議」を設置し、外部の目により、本市財政構造の課題を赤裸々に洗い出し、そこでの議論をもとに、抜本的な財政構造改革を進めていくこととした。多くの市民の意見を謙虚に拝聴し、この危機を何としても乗り越えていかなければならないので、全職員一丸となって取り組みたい。皆さん、よろしく願います。